

# 西山古墳の調査速報展 ～出土した埴輪を初公開～

陵南の森公民館の歴史資料室では、昨年10月に出土した西山古墳の遺物を展示します。

峰塚公園郷土の森ゾーンに所在する西山古墳では、発掘調査で2本の円筒埴輪を連結し、その中に遺体を葬る“埴輪棺”と呼ばれる施設が発見され



西山古墳 円筒棺

ました。残念ながら副葬品はありませんでした。

古墳の周りでは、円筒埴輪のほか壺を表した朝顔形埴輪や盾・甲(よろい)の形をした埴輪が出土しています。円筒埴輪の中には、粘土板を円筒の両側に付けた鱗付円筒埴輪もありました。

埴輪の形や作り方の特徴から、古墳が築かれた

のは今から1630年前(古墳時代前期)であることが判明しました。

速報展では、調査風景の写真パネルや模型などで西山古墳の埋葬施設を判りやすく解説します。あわせて、墳丘に並べられていた円筒埴輪や盾形などの形象埴輪を展示します。

期 間:2月末まで【入館無料】

場 所:陵南の森歴史資料室

開 館:午前9時から午後5時。土・日曜日も開館。

問い合わせ:社会教育課文化財担当(内線4480)

(社会教育課)

## サラダボール

## 心の目・・・

多分多くの方は、小学生のころ理科の実験で、水の入ったガラスコップに箸を斜めに入れてみると、コップをどこから見ても箸がちょうど水面のところで、折れ曲がって見えることの学習をした経験があると思います。これは「光の屈折」の現象により起きるものだと教わったことを覚えていますか。

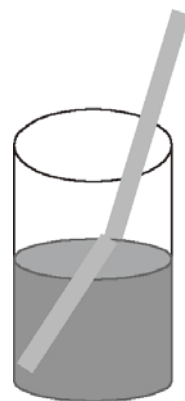
今、この学習を振り返り、次のことと重複させ考えてみたいと思います。それは、私たちの意識の中にあるいろいろな固定観念です。

この実験を現代社会に置き換え、コップが「世の中」であり、水が「固定

観念」、箸が「人」と考えると、折れ曲がって見えている箸は「心の偏見」と言えます。折れ曲がっている箸を、折れ曲がっていないように見ることはできませんが、実際にコップの中の箸を手にとって見ると、間違いなく箸が曲がっていないことが解るはずで、今も私たちが生きる社会では、本当は何もないことでも、変に曲がって見てしまうのが世間の心の目となっていないでしょうか。物事を外から見ただけで判断せず、内から見ることで、真実を見る目を養って欲しいと思います。

本当のことを見ることにより、折れ

曲がった箸を通してまっすぐな箸が心の中にきつと見えてくるはずで、その心の目こそが、一人一人の人權を大切にすることにつながっていくのだと思います。



(人權推進課)